小宮山豊写真展『光ものがたり』鑑賞会報告

神宮 進（10 組）

12 月 16 日（月）の夕方、地下鉄新宿御苑駅前のアイデム本社ビル 2 階のギャラリー「Sirius」で開催されている同展に同期 8 名が集まり、作者の小宮山豊君（２組）の説明を聞きながら作品 38 点を鑑賞しました。

集まったメンバーはホスト役の小宮山君のほか、関賢治、上原昇（２組）、原田義則（3）、成澤文和、浅倉英樹（4）、牧野泉（9）の諸氏と私（神宮）です。

私にとって写真とは、シャッターに触れたのは生涯１～２回、専ら他人の撮った写真しか知らず、勝手に年賀状に使わせてもらっているぐらいです。

展覧会は「花もよう」と「光の旋律」の２部構成で、作者の主題である花々と蜘蛛の糸と太陽光が織りなす鮮やかな色彩のページェントをマクロレンズ（実物は知らず、たぶん対象物を拡大して撮るレンズ）で捉えたという、幻想的な写真たちはどれも美しく太陽光の微妙さ、不思議さに感じ入りました。

翌日バイト先の庭にあるクモの糸に当たる太陽光をいろいろな角度から観察し、なるほどと感心しました。

鑑賞会のあとは、師走の新宿の夜を 20 分ほど歩いて席を移し、私の推薦した居酒屋でいつものように楽しく懇親を深めました。

来年も 65 期の同期会はいろいろと集まりが企画されているようですから、身体に気を付けて、みんなで盛り上がりましょう。

以下、個展主催者の小宮山君のコメントです。

「16 日は個展に来場いただきありがとうございました。集まっていただいた皆さんは、11 月 28 日に続き、「蕨の会」忘年会パート２となって、感謝、感謝です。

（個展ＨＰの作者の言葉から引用）

朝の光を浴びて輝く蜘蛛の糸、この美しく不思議な光景に出会って以来、その魅力に魅せられ写真を撮り続けてきました。心の琴線に触れた美しい瞬間をみつけ、素早くシャッターを押す。私はこの一瞬が好きです。」

作品「蜘蛛の糸」

左から浅倉、成澤、関、神宮、小宮山、原田、上原、牧野

作家、小宮山君の解説を聞く

（2024 年 12 月 18 日記）　　以上